

水俣病という、新しい病気が流行している。化学工業の副産物らしいが、まだ、今までのところ、一つもその証拠はつかめていない。

少なくとも新聞等に出てくる研究だけでは信用し得るも

言の葉



ふい

のではない。水銀説とか〇〇説とかいっても、単に説だけで説で病気はなおらない。

それより大切なことは病人や漁業者を助ける方が問題である。路上に重傷者が倒れているときに、加害者を捕えるのと傷の手当をするのと、ど

ちらが先きにすべきことだろう。

大体工業というものは、とにかく水や空気を汚すものだ。水俣の海などは、一見しただけでは先進工場地帯の海に比べれば、まだ清潔な方だ。東京や大阪には、もう、近くに海産物が居ない。居ないか

工場と漁業

ら、それを食うこともなく、病気にもならないのだろう。

熊本県は経済上工場誘致に力を入れた。ところが、その工場が水や空気を汚し、近海漁業を全滅させる恐ろしいものだとすることに気付かなかった。今更この汚れた海を浄化することは不可能に近い。

海底の泥をさらえば、むしろ毒物を全八代湾にまき散らすことになるだろう。工場としてはこれ以上に毒物だろうと疑われるもの（確定しないが）を出さない注意が要求される。しかしこれは必ずしも容易でない。なぜかというところが善に変るかわからないからだ。

現在の工場と漁業とは両立しがたい。追われる漁業が今からなし得ることは、有毒海面での近海漁業を遠洋漁業に切り変えることだけであり、これが不振の熊本県漁業を振興する方法でもある。もちろんこれは根本的でない。根本的には空気や水を絶対に汚さないことだ。(B)